
リリカルなのは The Republic Hero

blade world

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

リリカルなのは The Republic Hero

【Nコード】

N1677Z

【作者名】

blade world

【あらすじ】

エンドアの月での戦いにおいて死んだはずのアナキンがリリカルなのはの世界に行くお話です。

プロローグ（前書き）

初投稿なのでおかしなところがあるかもしれませんがよろしくお願
いします。

プロローグ

いったいどうなってしまったのだろうか？

かつてマスターヨーダは、死ねばフォースと一つになると言っていた。ルークを助けるときに、皇帝のフォースの雷を浴びてしまい、そして死んだのだから、今、フォースと一つになっているのだろうか？

だったら、今、昔着ていたジェダイの服を着て、ジェダイであったときに使っていたライトセイバーを持っていることにも納得がいくのだが……

しかし今、ちゃんと自分の体が実体で存在していて、しかも十歳の時の大きさで、知らない場所、おそらく誰かの家の庭であろう場所にいる。死んだはずなのに……

なので、つい叫んでしまった。

「いったい僕に何が起こったんだ！？。」

ガシャツツッ！！

……なんの音だ？

出会い

side ????

今、俺は十歳ぐらいのガキにショットガンを突きつけている。もともと、月村の二人いる娘のうち、どちらか一人を、惨たらしく殺してくれと俺は頼まれた。依頼主がどうしてそんなことを頼んでくるのかは気にならないわけではないのだが、とにかく、俺は依頼を遂行しようとし、月村邸の庭に忍び込むところまではよかったのだが、いきなり英語で叫んだ外人のガキがいた。

クソツ、このガキのせいで何者かが忍び込んだと向こうも思い、警備を固めるだろう。

なので俺のそのガキに近づいて、ショットガンのスライドを動かして、弾をこめてから、こちらに気づいたガキの額に銃口を向け、英語でこう言ったんだ。

「死にたくなければ、おとなしく俺の言うとおりにしろ。」

side 忍

今夜は、恭也と土郎さんに来てもらっている。私とすずかが狙われているかもしれないとので、お父さんが二人に護衛を頼んだのだけど……

「どうやら、本当に狙われているみたいだな。俺たちが、相手をしてくるから二人は中にいてくれ。」

「わかったわ」

そう、さっきいきなり叫び声が聞こえてきたのだ。しかも、英語で。

もしかしたら、雇われたのは海外のプロなのかもしれない。

でも、土郎さんと恭也がいるのだから大丈夫よね。

「二人とも来てくれ。ちょっと困ったことになった。」

土郎さんが呼んできたけど困ったことって、いったい？

「どうしたのかな、お姉ちゃん？」

「さあ？とにかく行ってみましょ。」

そして、外に出て、私とすずかは絶句した。なぜならそこにはショットガンをアルモノに突きつけている覆面をした男がいて、そのアルモノというのが

ちよつとどころかとても奇抜な格好をした、すずかとあまり歳の変わらないであろう男の子だったのだから。

うん、これは確かに困ったことね。

自己紹介 1 (前書き)

期末試験があつたので更新が遅くなりました。後、最初に考えてた話の形だとなんだか変になるので追加しました。

自己紹介 1

side 忍

「それで？その子を人質にとって、あなたは私たちに何をお望みで？」

「なに、俺は月村の二人娘のうち一方を殺してくれ、という依頼をもらってな。で、いざ忍び込んだのまではよかつたんだが、このガキがすでに庭にいて、いきなり叫びやがった。そつちの二人が外に出てきたのだからそれが理由だろ？本来なら、このまま家の中に忍び込んでどつちか殺して、そんでから逃げるんだけど、このガキのせいで出来なくなつた。」

「だから、その子を人質にして、こつちが手を出せないようにしたと？」

「よくわかつてるな。というわけだ、そつちのちつちゃい方のお嬢ちゃんはこつちに来い。」

「っ！！！すずかに何をするつもりなの！？」

「依頼人には、惨たらしく殺してくれっていわれててな。まだ十歳にもならないガキの頭をショットガンでザクロにした方がインパクトがあるだろ？」

恭也も土郎さんも、あの人質になっている子がいるからうかつに出れないみたいね。でも、話を出来るだけ長引かせたら、二人が何とかあの子を助けて、殺し屋を取り押さえ隙を作れるかもしれないの

だけど。

そんなことを考えていると

すずかが殺し屋の方に行こうとしていた。

自己紹介 1 (後書き)

後、一話追加します。

自己紹介 2 (前書き)

本編にまだ入れない(涙)

自己紹介 2

side すずか

「何をしているの！？すずか！？」

「何って、あの人の言う通りにするんだよ。」

「なっ！？や、やめなさい、すずか！？」

やっぱり、お姉ちゃんは私のしようとしていることを止めようとしてくれる。

けど

「ありがとう、お姉ちゃん。私のこと、心配してくれて。でも、あの子は私たちのせいで、今、怖い目にあっているんだよ。」

「それはそうだけど・・・」

「なるほどね。だから、自分を殺せ、その代わりにこのガキを解放しろ、て言うのか？」

「だめですか？」

「いや。じゃあ、さっさと来い。」

「待って！だったら、私が！」

「悪いな。どっち殺したら依頼に沿っているかで言うと、やっぱりお嬢ちゃんの方なんだ。」

そして、私は今、解放された男の子には話しかけていた。

「もう大丈夫だよ。」

「……………」

あれ、もしかして英語、ちゃんと言えてなかったのかな？

「大丈夫って言われても別に自分でも何とか出来ただけど、ほら。」

そう言っつて、男の子が手を横に振ると

銃が遠くに飛んでいって

手を突き出したら

殺し屋の人が吹っ飛んで壁にぶつかって気絶してしまった。

……………え？

自己紹介 2 (後書き)

自分の文才のなさに涙目

自己紹介 3 (前書き)

おそらく、これからは短いのをちよくちよく更新していきます。

自己紹介 3

side アナキン

「初めまして、僕はアナキン スカイウォーカーです。」

・・・あれ？言葉が通じていないのか？返事がやってこないのだけ
ど・・・

「あの、もしかして言葉が通じてないのですか？」

「・・・いや・・・通じてはいるんだけど・・・君はさっきいった
い何をしたんだい、アナキン君？」

そういつて背の高い方の男性が、視線を移した先には僕がさっきフ
ォースで壁に激突させた暗殺者がいた。ほかの三人も同じ気持ちな
のだろう。彼らと殺し屋とのやりとりで僕が聞いたことのない言葉
を話していたから、もしかすると、ここは共和国ではなく、ジェダ
イヤフォースのことを知らないのかもしれない。けど、ベーシック
が通じるので、もしかすると、と思って聞いてみた。

「さっき僕がしたことについて説明したいとは思っていますが、一つ
だけ先に聞かせてください。ここは何という星なのですか？」

「えっと・・・地球だけど・・・」

結局、共和国の星ではないみたいだ。あれ？じゃあ、何であの人は
ベーシックを話しているんだ？

自己紹介 4 (前書き)

オリジナル小説のネタを考えていて、更新するのをすっかり忘れていました。

自己紹介 4

side 士郎

「ここは何という星なのですか？」

「えっと・・・地球だけど・・・」

アナキン君だったか、彼はなぜ、こんなことを聞いてくるのだろうか？どうやら、今は何か考え込んでいるみたいだけ。

side アナキン

僕が、今、共和国ではない『地球』という星にいるということがわかったのだけれど・・・何から説明しようか？まあ、無難な方がいいだろう。けれどその前に

「さつき名乗ったとおり、僕の名前は、アナキン・スカイウォーカーです。あなたたちの名前は？」

「高町士郎だ」

「高町恭也だ」

「月村忍です」

「月村すずかです」

「名前を覚えてくれてありがとうございます。いきなりなのですが、僕はこの星の出身者ではなく、もしかしたら、この世界出身ではないかもしれません。」

自己紹介 4 (後書き)

睡魔に負けそうなので今回の更新はここまでです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1677z/>

リリカルなのは The Republic Hero

2011年12月18日02時46分発行